

30P1-am320

Acinetobactinの全合成研究

○三村 健一郎¹, 原 誠一¹, 加賀山 美沙¹, 原山 尚², 竹内 靖雄¹(¹岡山大薬, ²徳島文理大香川薬)

【目的】 Acinetobactin は 1994 年に *acinetobacter* 属の細菌から単離・精製されたシデロフォアである。acinetobactin の構造は、機器データの解析および加水分解反応により、*trans* 体であると提唱されている。一方、*trans* 体の関連化合物との比較からは、この構造提唱に疑問があることも指摘されており、立体構造については、確固とした結論が出ていないのが現状である。そこで、発表者らは、合成的手法を用い、その構造を明らかにすることを試みた。

【方法・結果】 まず、加水分解産物に threonine が検出されたという実験事実に基づき、acinetobactin の構造が *trans* 体であると仮定し、全合成研究を行った。合成できた *trans* 体化合物と acinetobactin との機器データの比較により、明らかな相違が認められたことから、acinetobactin の相対配置は *cis* 体である可能性が示唆された。よって、acinetobactin の絶対構造を解明すべく現在、*cis* 体 2 種の不斉全合成を検討している。

Scheme 1

